今期のニュース！

特別職の期末手当、何故増やすことになったの…！？

1 期末手当が、増額されました。

特別職（市長、副市長、教育長、議員の4つ）の**期末手当の金額が上がります**。3月議会において、期末手当引き上げの条例案が可決されたためです。

一般職（特別職以外の公務員）の期末手当の額は、国の**「人事院勧告」**によって変動させることになっていますが、特別職は、一般職と異なり、「人事院勧告」によって**金額の引き上げを行う必要はありません。**

2 委員会では「否決」。本会議では…

総務建設委員会では、期末手当増額の議案は、**賛成3、反対4となり否決**されていました。

しかし、議員全員が参加する本会議では、**賛成8、反対8の可否同数**となり、**議長において「可決」**とされました。

3 「増やす」ものと、「減らす」もの、整合性はどこに？

北村は、委員会、本会議、ともに、この条例改正案に反対しました。

3月議会では、**財政が厳しい**ことを理由に、**文化複合施設を3棟から2棟に「減らす」という市長判断**がされました。一方で、**特別職の期末手当を「増やす」という議案を提出したのも市長**です。

「増額分のお金を、文化複合施設建設に充てることもできたのではないか？」という疑問を持ちましたが、施設の機能を1つ削っているにも関わらず、期末手当を上げることに対する明確な説明がなかったため、条例案に反対しました。この状態では、市が**「本当に必要としていること」の取捨選択**ができているとは言えません。

なぜこうなってしまうのかというと、議案をつくる際に、**予算の必要性を議論する過程が不足している**からだと考えています。

当局が、予算の必要性を判断した根拠は何か、どういった話し合いをもとに議案を作ったのか、議会に示してもらうことが必要です。今回の期末手当の増額の理由は**「慣例により一般職に準じて変動させているから」**というものでした。「慣例により」といったあいまいな根拠をもとにしては、まず、適切な議論ができません。

「市の施策全体の整合性」という観点からチェックを行い、提案の根拠を始めから明示するよう働きかけ、**より丁寧、慎重な議論と適切な判断ができる状態**を目指します。

市長に質問！

文化複合施設、「熊野学センター」の意義をどう考えていますか？

1 なぜ、このテーマを選んだの？

私は大学で歴史学を学び、博物館学芸員の資格を取りました。歴史を学んだものとして、現在の文化複合施設に対する議論では、**「歴史を学び、活かす意義」**が置き去りにされていると感じています。

「熊野」という場所で、これから「熊野学」を打ち立てていこうとする意義は、財政的な厳しさだけを理由にないがしろにしてしまってはいけません。**文化的側面からの議論をもっと深めてほしい**と考え、このテーマを取り上げました。

2 資料の収集と保存、どうしていくの？

「文化政策」には、**①文化財の保護**、**②文化の振興と普及**という2つの大きな柱があります。

しかし、熊野学センターにあった**「資料の収集と保存」**機能が先送りされたことにより、**「文化財の保護」**政策が手薄になります。これでは、熊野の歴史や文化を後世に伝える、という命題が果たせません。

また、**資料の収集と保存は、調査研究や情報発信の土台となるもの**です。

市は、収集・保存機能について、「市の公共施設が空いてくれば、そこを利用していく（ことも考えられる）」と答弁しています。どのように収集・保存機能を確保するかは、もちろん考えなければなりません。

ただ、質問を行った結果、**市は、「熊野学の意義」をしっかり考えていなかったのではないか**、という思いが強くなりました。というのも、熊野学がこの地に起こる意義を理解されていれば、**センター先送りという判断は、もっと慎重になったはず**だからです。

3 何のために建てるのか？

何のために「文化複合施設」を作ることにしていたのか。「見直し」発言によって、それが見えなくなったまま、熊野学センターの機能が分断されてしまっては、**「文化財の保護」**という施設建設当初の目的の一つが果たせず、**調査研究、情報発信も行いにくくなる**のではないでしょうか。

財政的な視点を持った上で、もう一度、**熊野学センター、文化複合施設を作る意義**について市の考え方を示すよう、当局に求めていきます。

その議論がないまま、基本計画や基本設計が置き去りにされてしまうことは、**施設建設に思いを持ち、携わってきた人たちの思いを絶ってしまう**ことになります。それは防がねばなりません。

「見直し」という事態になったからこそ、改めて、**施設を作る意義と、これからの文化施策のあり方**を議論していきたいと思います。